

労働運動へのチャレンジ45年

高木 剛

(連合顧問・全労済協会理事長)

(はじめに)「雇用社会—日本」—労働組合の存在意義と不条理との闘い

1. 労働運動の原点

(1) 労働組合は「ワーカーズ・ファースト」を追求する集合体

- ① 「ワーカーズ・ファースト」の要諦は「相愛扶助」と「連帯」
- ② 「ワーカーズ・ファースト」のための力の発揮を担保する労働三権
- ③ 「ワーカーズ・ファースト」の延長線にある不条理との闘いと民主主義の死守

(2) 私が常に意識してきた労働組合の活動目標

- ① 組合員の「雇用」「労働」「生活」と権利の改善
- ② 働きやすい職場づくりと労働者の自己実現のレベルアップ
- ③ 産業・企業の発展ための基盤づくり

—生産性三原則を踏まえた生産性向上とイノベーション、

産業政策、産業民主主義

- ④ 自由にして民主的な労働運動の路線の堅持

—左右の全体主義との対峙、社会の民主的な発展をはかるための政治的民主主義、

選挙のための活動、不条理と不公正との闘い

- ⑤ 切磋琢磨の労使関係の形成
- ⑥ 各般にわたる政策制度要求・実現のための活動の促進
- ⑦ 相互扶助のための労働者自主福祉事業の推進
- ⑧ 国家主権の尊重と世界平和の実現
- ⑨ 民主的な組織運営と財政の確立
- ⑩ 組合活動への参加のレベルアップと教育・宣伝活動の充実

2. 45年余りに亘る私の労働運動経験

(1) 単組、地方組織、産別、ナショナルセンターの各組織での仕事を経験

(2) 単組(全旭化成労働組合連合会、通称：全旭連)時代の活動の思い出

- ① 家族ぐるみの社内昇進試験
- ② 賃金格差の是正
- ③ 労働委員会付議義務付け排除の闘い
- ④ 平和義務違反のストライキの差止命令とその後の対応
- ⑤ 4組3交代制の実現
- ⑥ 関連会社と親会社の争議時の課題
 - －関連会社のストライキ時の親会社からの出向者のスト破り問題
- ⑦ 延岡市議選挙と区割り

(3) 宮崎地方同盟時代の思い出

- ① 縫製会社の倒産と生産管理による再建
- ② 宮崎県の中小企業向け倒産時労働債権支弁制度の設立
- ③ 宮崎市タクシー労働組合協議会(タク協)の統一争いストライキ
- ④ 農協労働組合の結成とそのサポート
- ⑤ 国政選挙の活動 ー特に米沢選挙
- ⑥ 宮崎県労働委員会や最賃審議会への参加
- ⑦ 国鉄・郵政における組織対立と鉄労・全郵政支援
- ⑧ 総評・同盟対立と労金加盟問題

(4) ゼンセン同盟 (UI ゼンセン同盟) 時代の体験

- ① 組織拡大と産業政策づくり
- ② 部会新設 (例)フード部会
- ③ 組織化にまつわる話あれこれ
ーパチンコ店の組織化、介護クラフトユニオン結成
- ④ 連帯基金制度の維持と縮小
- ⑤ 都道府県支部長の苦労話
- ⑥ 産別統一闘争と中間委員長の承認
- ⑦ 労組法第 18 条の地域における一般的拘束力
- ⑧ 産業政策に関連した諸活動
ー日米繊維交渉、消費税導入問題、大規模店舗法問題

- ⑨ 産別統合への対応
- ⑩ 各級選挙—参院選の敗北時の経験
- ⑪ 労働審判制度の創設（連合副会長時）
- ⑫ 5つの国際産別活動への参加とその活動

(5) 連合時代の経験

- ① 連合会長選への出馬
- ② ベースアップの要求が出来ない春闘と「賃金改善」
- ③ 非正規雇用労働者の増加と非正規労働センターの設立
- ④ ホワイトカラーエグゼンプションの提案の押し戻し
- ⑤ 洞爺湖サミットの事前のG7労組代表と福田首相（サミット議長）との会見
- ⑥ 安全保障政策等をめぐる連合内意見調整の難しさ
- ⑦ ICFTUとCFLとの合併、そしてITUCへの発展
- ⑧ AFL-CIO、TUC、DGB、FKTUとの定期協議及びロシア労組との協議
- ⑨ OECD-TUACの活動とG7、G20、APEC等における労組と各国リーダーとの協議
- ⑩ 2009年衆院選挙と政権交代
- ⑪ 中華全国总工会との仲直り
- ⑫ 国際労働財団(JILAF) 理事長時の経験 — 発展途上国における生産性教育
ベトナム労組に対する労働組合法改正に関する支援 etc

(終わりに) 良き師、良き仲間恵まれて

以 上